

生体応答医学実験実習

Experimental practice of medicine for biological responses

12 単位 (選択) 1 年 (通年), 2 年 (通年), 3 年 (通年)

蛭名 洋介 (授業責任者)・教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座

木戸 博・教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座, 谷口 寿章・教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座, 松本 満・教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座

坂口 末廣・教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座, 福井 清・教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座, 板倉 光夫・教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座

原 英二・, 谷上 信・非常勤講師 / 医学教育部, 高橋 永一・非常勤講師 / 医学教育部, 矢野 仁康・准教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座, 藤原 和子・, 井上 勲・

坂井 隆志・准教授 / プロテオミクス医学専攻 生体応答医学講座

【授業目的】 生体応答医学・生体対応医学大講座を構成する各分野の実験実習を通して、実験主義・技能・実験研究法・論文作成法を習得する。

【授業概要】 えられたゲノム情報を基にプロテオミクス研究を展開し、その結果を医学的応用するために必要な基本的実験技能を習得させる。さらに、実験結果を基に目的を達成するための作業仮説の立案・実証・修正プロセスを学ばせ、最終的に研究成果を学術論文としてまとめる方法を指導する。具体的には、生命現象の動的バランスを支える生体制御の仕組みをプロテオミクスの観点から解説する実験実習と、この動的バランスの破綻に基づく病気の発症原因と治療法の解明のためのプロテオミクス研究の実験実習を行い、両研究を統括的に理解しえる能力を養う。

【履修上の注意】 e-learning 学習は扱っていない

【授業計画】

大項目

1. 各研究室にて随時、技術指導をする。

【成績評価】 出席状況・実習態度・レポート等により評価する。

【授業コンテンツ】 <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=217591>

【連絡先】

⇒ e-mailにて各教員と時間調節の上、面談してください。

【備考】 生体応答医学・生体対応医学大講座の複数の教員がそれぞれの専門分野の実験実習を指導する。